

JSPS Information

◇日本惑星科学会 第50回運営委員会議事録

◇日本惑星科学会 第20回総会議事録

◇賛助会員名簿

◇日本惑星科学会 第50回運営委員会議事録

日時：10月8日(水) 19:00-20:30

場所：秋季講演会会場

運営委員：

出席：水谷 仁, 阿部 豊, 井田 茂, 倉本 圭,
香内 晃, 佐々木晶, 田近 英一, 城野 信一,
林 祥介, 向井 正, 山本 哲生, 渡邊 誠一郎,
荒川 政彦, 安部 正真, 榎森 啓元, 中島 健介,
土山 明, 大谷 栄治, 並木 則行, 堀内 千尋

欠席：渡部 潤一, 春山 純一, 中村 昭子

オブザーバー：南 繁行, 武智 誠次(大阪市立大
LOC), 中村 智樹

議題：

1. 第7期上期財務中間報告について

榎森財務専門委員長より、今年度の予算執行状況について説明があった。学生会費の増収は、この半年間に20数名学生会員が増加したのが理由である。この増収により賛助会員退会分に相当する減収を補うことができたとの報告があった。これらの議論の後、中間報告は原案通り了承された。

2. 第7期下期財務ガイドラインについて

榎森財務専門委員長より、来年度の予算ガイドラインに関する説明があった。以前より事務局を通して退会申請のあった日立製作所の退会が正式に承認された。このことにより来年度の予算は賛助会員

会費がさらに縮小となる。水谷会長より宇宙開発事業団は新組織に変わっても賛助会員として残ってもらえそうだという見通しが示された。また、イーサイドの業務委託費が試行期間を過ぎたことにより契約通りアップすることになる。IUGGへの協賛金は先方の組織委員会が黒字になったこともあり、予定通り返金される予定であるとの報告があった。これらの議論の後、ガイドラインは原案通り了承された。

3. 学生正会員に関する 会則改定案について

榎森財務専門委員長より、前回の運営委員会から継続審議になっていた学生会員に関する会則改定に関する説明があった。学生会員とは原則として大学にお金を払って学籍を持っている者であるとの見解が示された。この趣旨に添った改正案の条文が提示され、原案通り了承された。なお、学生正会員の申請は本人の自己申告に基づいているので、就職後に会員属性が変更されないままの場合も多い。現在、事務局の方で気がついた時に属性を変更しているが、運営委員の方々にもご協力願いたいとの依頼があった。

4. 学会賞関連：名称、受賞者の 決定について

向井学会賞審査委員長より、学会賞の名称変更と

内規の変更についての提案があった。名称変更は、「日本惑星科学会優秀研究者賞」を「日本惑星科学会(最)優秀研究者賞」に変更してするというもので、内規変更は、優秀研究者賞内規の第4条2項に自薦を含むことを明記したいとの趣旨説明があった。議論の結果、名称変更は原案通り了承された。また、内規変更は、「本会の正会員は、(自薦他薦を問わず)選考委員会に...」とすることで了承された。次に、最優秀研究者賞の募集に関する説明がなされた。10/13の週に募集要項が公開され12月末に募集を締め切り、1月末までに候補者を5名に絞り、4月に受賞者を決定するという日程説明があった。なお、受賞者は5月の総会で紹介される。引き続き、最優秀発表賞に関する選考過程の報告がなされた。17名から応募があり、書類選考により10名に絞った。10名というのはLOCからの要請であり、プログラムの時間的制約から決まった人数である。書類選考では、書類不備や資格不適格者が多く、実質的な内容審査は行われなかった。書類選考をクリアした10名のうち1名が辞退したので結局9名による審査となった。口頭、ポスター発表を審査した結果、玄田会員を受賞者とすることが提案され、原案通り了承された。審査講評は総会で委員長より報告されることになった。今回の審査過程では、書類審査において提出書類の不備や資格不適格者が多かったので応募要項をさらに周知すべきとの意見が出された。また、周知することにより書類審査は機械的に行い、融通を利かせるようなことはしない方が良いとの意見が出された。書類審査を充実させるために、提出資料にExtended abstractのような、より内容の理解が進むものを含めたらどうかという意見が出された。審査員は5月に半数を入れ替えることになった。なお35歳以上で最優秀研究者賞の受賞資格のない会員が対象となる。最後に、学会賞の受賞者には、遊星人への寄稿や秋季講演会での特別講演をお願いしてどうかとの意見が出された。

5. 遊星人印刷所の変更について

倉本編集専門委員長より学会誌の印刷所変更に関する提案がなされた。現在の星光社は印刷の質も低く、ミスも大変に多い。新しい印刷所は見本品の印刷品質は非常に良く、これまで希望の多かった論文毎の別刷りにも対応してくれるとの説明があった。またPDF別刷りにも論文毎に対応が可能である(星光社では1冊丸ごとでないといけない)。これに対して、学会としてPDF別刷りを購入しwebで公開してはどうかという意見がなされた。これらの議論の結果、印刷所の変更は原案通り了承された。12/25号までは星光社、3/25号から新印刷所への切り替えとなる。編集スケジュールは従来とほぼ同じで行うことが確認された。

6. 行幸部会委員の選出について

春山行幸部長の代理で、荒川総務専門委員長から行幸部会の委員に矢野会員を加えるよう提案があった。行幸部会は1人で行っているため春山委員が多忙だと対応に遅れが生じ、秋季講演会などの学会運営に遅れが生ずる危険性があるためであるとの説明があった。議論の結果、原案通り了承された。

7. 2004年秋季講演会について

倉本委員から2004年に札幌で行う秋季講演会についての説明があった。日程についてはLOCに一任し、決まり次第同報メールにて会員に報告することになった。札幌LOCでは学会サイトに学会参加用のCGIを作成することを予定しており、今後の秋季講演会LOCはこのCGIを利用できるようになるとの報告があった。

8. その他

総会の議長として中島委員，書記として田中会員（東工大）を推薦することが了承された。

報告：

1. 2003年秋季講演会について

南LOC委員長から秋季講演会についての報告があった。参加発表数は101件でそのうちポスターは56件である。運営にあたって大学から20万円の補助を受けている。

2. EPS 関連報告

中村(智)欧文誌専門委員からEPS関連の報告があった。EPSが科研費補助金を受けるのに必要な論文数を満たさない可能性があるため、投稿数が増えるよう呼びかけている。その結果9月の投稿は増加したようである。ESPはAUGとのパートナーシップに参加することになり、AGUのサイトからEPSの論文を参照できるようになった。また以前の経過報告にあったようにEPSは正式にADSに登録されたとの報告があった。最後に、佐々木委員からEPSのimpact factorを増やすため論文を引くように依頼があった。

3. 遊星人の発行状況について

倉本編集専門委員長より、遊星人の編集状況について説明があった。9/25号は6/25号の刷り直し分と伴に発送された。12/25号は金星特集であるが、論文数が12本と多いので2号に分割して金星特集を組むことになった。神戸COEの宣伝を向井委員、JAXA発足記事を水谷会長が受け持つことになった。

4. 学術会議惑星科学研連発足

山本副会長より、惑星科学研連が10月21日に発足する旨の説明がなされた。研連は6名の委員からなり、その内2名は他研連からの推薦となっている。活動方針としては、科研費の細目に惑星科学を作る、広く他学会との協力関係を作るとのことである。

5. その他

阿部対外協力専門委員からIUGGの募金について報告があった。惑星科学会関連では個人募金が8名14万円、企業募金が3社（IHI関連会社2社、未来工学社）25万円であった。

◇日本惑星科学会第20回総会議事録

2003年10月9日

日時：2003年10月9日(木) 16:00 - 17:30

場所：大阪市立大学学術情報総合センター

大阪市住吉区杉本3-3-138

出席者：74人

委任状提出者：54人 [議長51, 門野会員1,
生駒会員1, 向井会員1]

会員数：558人

定足数：56人

1. 開会宣言

荒川総務専門委員長が開会を宣言

2. 議長団選出

推薦により、議長に中島健介会員、書記に田中秀和会員が選出された。

3. 議事

3.1 第7期上期中間報告

榎森財務専門委員長から今年度の予算執行状況について報告があった。収入は現在までのところ予定通りであり、特に学生会費は順調に納められているとの報告があった。支出についても予定通りに行われている。なお、秋季講演会、最優秀発表賞の支出は下期に計上するとの説明があった。

3.2 第7期下期予算編成・執行方針

榎森財務専門委員長から来年度の合同大会までの予算に関するガイドラインの説明があった。例年通りの予算を組んでいるが、特筆すべきこととして、役員改選の年にあたるが選挙等関連事務を電子化したため予算措置が不要となっている。

質疑・応答においては以下のようなやり取りがなされた。

- ・特別会計の百万円に関しては利息を考慮すべきであるとの指摘があった。
- ・学会賞(最優秀研究者賞+最優秀発表賞)の賞金として合計20万円を予算に計上にすべきであるとの指摘があり、そのように訂正された。(予備費を70万円に減額することも含む。)

以上の執行方針に関する採決が行われた。採決の結果、賛成74名、反対0名となり、過半数の賛成により第7期下期予算編成・執行方針は可決された。

3.3 学生正会員に関する会則改定

榎森財務専門委員長から学生正会員に関する会則改定案の趣旨説明がなされた。それによれば、学生会費を適応する会員の規定が必要であるため、会則を以下のように改定する行う。

- ・会員は正会員と賛助会員から成る(そのまま)。
- ・正会員は次の2つに分類される
 - (a) 学生正会員(学籍を有する正会員[学費を払っ

ている無しに依らない]

(b) 一般正会員(その他)

質疑応答後、会則改定に関する採決が行われた。採決の結果、賛成74名、反対0名となり、2/3以上の賛成により学生正会員に関する会則改定は可決された。

4. 報告事項

4.1 学会賞の名称について

向井学会賞選考委員長から学会賞の正式名称を「日本惑星科学会最優秀発表賞」と「日本惑星科学会最優秀研究者賞」にするとの報告があった。また、今年度の最優秀研究者賞はこれから募集が開始され、その詳しい募集要項については近日中に発表されるとの説明があった。審査結果発表及び表彰は、来年度の合同大会での総会で行う。また設立された二つの学会賞に関してニックネームを募集するので、学会員からアイデアを出して欲しいとの依頼があった。これに対し、廣井会員から「正式名称に若手又は学生と限定した方が良いのでは?」との意見があったが、向井委員長から、その趣旨に関してはニックネームの採用により実現できるとの説明があった。

4.2 その他

本年度秋季講演会LOC委員長(大阪市立大学南繁行教授)から挨拶があった。学会参加者は約130名であることなどが報告された。

来年度秋季講演会LOC委員長(北大林祥介教授)から挨拶があった。講演会の日程は決まり次第連絡するとの報告があった。

4.3 平成15年度最優秀発表賞の発表

式次第に従い、議長の中島会員から受賞者の発表があった。今年度の受賞者は玄田英典会員(東大)に決定した。水谷会長から表彰状及賞金の授与があり、その後、玄田会員から挨拶があった。

向井審査委員長から以下のような審査講評あつ

た。今回の応募者総数は17名で、予備審査の結果、発表者を10名に絞った。予備審査により落選した方は、主に書類不備のためであった。また、予備審査を通過した1名から参加辞退があった。全ての参加発表者が素晴らしい講演を行ったが、中でも玄田会員の発表内容は、惑星科学に対する波及効果が大きく、他分野の研究者にも非常に分かりやすいものであった。これが受賞理由として挙げられた。玄

田会員と最後まで賞を争ったのは倉橋会員であり、その他、三浦、小林、小野瀬の3会員を挙げる声もあったとの講評がなされた。

5. 議長団解任

6. 閉会宣言

◇日本惑星科学会賛助会員名簿

2003年12月25日までに、賛助会員として本学会に御協力下さった団体は下記の通りです。社名等を掲載し、敬意と感謝の意を表します。(五十音順)

宇宙開発事業団

カメカインストルメンツ(株)

(財)リモート・センシング技術センター

(株)日立製作所放送・通信システム推進本部におきましては2002年度をもって賛助会員から退会されました。今年度のこれまでの号(3/25, 6/25, 9/25日号)の賛助会員名簿につきましては訂正させていた

だきます。関係者の方には御迷惑をおかけした事をお詫びいたします。また、これまでの日本惑星科学会への御支援に感謝申し上げます。